



## 2【全体を通して】

### ◎教育目標

校訓追求評価、および学校評価をとおして学校教育目標や校訓については一定の評価を得ている。

### ◎心の教育

日々の取組はもちろん、道徳公開授業や平和学習、人権週間の取組が良い結果をもたらしている。校訓追求評価の「友愛」の項目の評価が高いことにもつながっている。

### ●業務の改善

年度当初に比べ、後期は評価が上がっている。次年度も引き続き縮小、削減できるものの洗い出しを行うとともに、限られた時間の中でしっかりと見直しをもって業務を行うという教職員の意識改革も大切である。

### ●家庭学習の習慣

クロムブックやAIドリルを効果的な活用をとおした習慣化を図る。研究主任を中心とし、具体的な活用方法について研修、議論を行い、学力向上のための取組を積極的に進める。

### ●環境整備

自分たちでできる範囲は庁務員の協力等を得ながら進めていく。それでも難しい場合は事務と協議の上、整備していく。

## 3 昨年度後期との比較

昨年度後期（最終評価）と比較すると、肯定的割合が上昇した項目が全体の60%、横ばいが9%、下降した項目が31%となっている。特に、「心の教育」、「確かな学力」、「信頼される学校」、「教育環境」の項目においては飛躍的な向上が見られた。また、下降した項目については、大きく下降したものはなく、わずかに下がっている項目がほとんどである。

上記のことから、昨年度と比べて今年度は全体的に評価が上昇しており、教職員の日々の取組や生徒、保護者への丁寧な対応が結果に結びついているものと考えられる。

次年度は今年度の取組を継続しつつ、評価が下降した項目についての強化と具体的取組について全職員で共有し、改善を図る。